

## 三小だより

## 12月号

## 早く、早く

校長 藤本 賀津雄

今学校では、朝の時間を利用して駆け足を行っています。これから寒さが一段と厳しくなってきますが、日ごろから体を動かすことで、どの子ども寒さに負けず、元気に過ごしてほしいと思っています。

ところで、ある小学生が「早く、早く」という題で、次のような詩を書いています。

早く早くで朝が来て、早く早くで日が暮れる。

<略>

いったいお母さんは、何回早くって言うのかなあ。

早く起きなさい、早く食べなさい、早く用意しなさい、早く宿題しなさい、早くお風呂に入りなさい、早く歯磨きしなさい、早く寝なさい、など口癖になっていませんか。忙しい時や急いでいる時に限ってグズグズしているように感じるのはよくあることだと思います。子どもにとってみれば、今日もガミガミ、ロウるさいなあと思っているかもしれませんね。

実は、誰でも一日は24時間で同じですが、子どもと大人では時間が過ぎていく速さに違いがあります。好きなことをしているときは時間の経つのを早く感じたり、逆にいやいや勉強しているときは時間の経つのを遅く感じたりするのと同じです。子どもは経験が少ないため、ゆっくり見たり聞いたり遊んだりして自分で納得しようとしているのです。いろんなことに興味を持ち、自分で確かめたいのです。私たちも子どもの時代に、なかなかまっすぐには下校せず、途中で溝の中を覗き込んだり、蟻の行列を眺めたりした経験があるのではないのでしょうか。

世の中全体が、昔と違って忙しくなっていることもあり、日ごろのストレスやイライラから、つい子どもをしかってしまうこともあるでしょう。でも子どもは自分のペースでやっているだけで、わざとゆっくりグズグズしているわけではありません。「何をグズグズしているの。早くしなさい」としかる前に一度ぐっと我慢して、「どうしたの」と聞いてやる心のゆとりがあるといいですね。

また、タイマーを使うのも一つの方法です。急いでほしいときにタイマーをセットして「よーい。ドン！」の掛け声でスタートすると、「ママ、あと何分？」と聞いてきたりします。「まだ1分残っているのに、もうできたよ」と自慢げに話すこともあるでしょう。そんな時はしっかりほめてやるといいですね。

